



田原市立泉小学校 令和6年度9月号

令和6年9月30日

泉小だより



学校教育目標 心豊かでたくましい子 ○深く考える子 ○がんばりぬく子 ○助け合うやさしい子

防災について考えよう！ ～南海トラフ地震などへの対応～

校長 小野 勇一

8月8日、日向灘の地震発生により、後発地震発生の可能性が高まったということから臨時情報（調査中→巨大地震注意）が発表されました。現在、通常の授業期間での発表を想定し、本校の防災規程や対応マニュアルについて再検討を始めています。さらには、校区や市とも協議を重ねていく必要があると考えています。

次の資料は「田原市南海トラフ地震臨時情報に係る防災対応方針」の抜粋です。

1 事前避難対象地域について

（★：泉小で追記した言葉あり）

※ 30 cm以上の浸水が60分以内に生じる地域のこと

- ① 住民事前避難対象地域 池尻区の一部などの6自治会（太平洋側）
- ② 高齢者等事前避難対象地域 西山自治会などの6自治会（三河湾側）

★ 泉校区は事前避難の対象地域ではないが、伊川津・夕陽が浜の国道より海側の多くが、60～120分で浸水（津波）が到達すると想定されています。

2 田原市の防災対応方針について

- ① 臨時情報（巨大地震警戒）発表 ※市に大津波警報、津波警報・注意報が発令中
→ 事前避難対象地域に対して「避難指示」及び「高齢者等避難」を発令
対象地域では、避難所を開設。区域内に対象地域を含む学校・市民館は、1週間の休校・休館を基本とする。つまり、赤羽根中は休校となる。

★ 対象地域を含まない学校・市民館は、通常通り開校・開館することを基本とする。泉小学校は通常通り開校となります。

また、津波災害警戒区域内にある泉保育園は休園となる。

- ② 臨時情報（巨大地震注意）発表

→ 学校・保育園等は、注意対応に留め、通常業務の継続を基本とする。

今後、授業日に「南海トラフ地震情報」が発表された場合は、次の通りです。

4月配付『R6学校ガイドブック』

P.6

非常災害時の
対応②を参照



- ・ 在宅中 → 自宅待機
- ・ 登校中 → そのまま登校
- ・ 在校中 → 校内に留め、対応を協議・連絡。
(授業継続、引き渡し下校など)
- ・ 下校中 → そのまま下校

ただ、もし巨大地震が実際に起きた場合はその限りではありません。現在いる場所から最短の高台へ避難するという判断が必要かもしれません。

また、臨時情報（巨大地震警戒）発表からの翌日以降は、市の防災対応方針に沿うことが原則ですが、保・中との対応にねじれも生じるため、様々な状況を鑑みて判断していくことになります。防災について、家庭や地域からのご意見をお届けください。

－ 修学旅行に行ってきました －

9月19・20日、6年生児童が京都・奈良へ修学旅行に行ってきました。36℃に迫る非常に厳しい残暑となりましたが、22人全員がそろって参加し、ケガや体調不良もなく、無事終えることができました。ありがとうございました。

本年度、京都市内を3班に分かれ、ジャンボタクシーによる班別分散学習を行いました。子どもたちが訪れたいところを調べ、班ごとの計画書を作成し、計画に沿って運転手さんにご案内いただきました。拝観料や駐車料金、昼食料金等の支払いなど、できる限り子ども主体で寺社などを巡りました。奈良公園内も大仏殿を出た後は、班別行動となりました。時間が押して予定を変更したり、公園内で迷子になったりするなど、不安や失敗もありましたが、ピンチを仲間と協力して切り抜けた経験は、貴重な学びとなったことと思います。

そして、級友と寝食をともにして、多くの思い出をつくった素晴らしい旅にすることができました。

本校恒例のバスの中での解散式。子どもたちは、自分が学んだことや感じたこと、その理由を自分の言葉でしっかり語ることができました。

修学旅行のスローガン「小さな革命～経験×楽しい＝成長～」のように、一人一人が得た「経験」と仲間と共有した「楽しさ」を掛け合わせ、みんなで成長していきましょう。



奈良 東大寺大仏殿

－ 保小合同引き渡し訓練 －

9月6日、泉保育園と合同で、避難訓練・引き渡し訓練を行いました。地震発生後の運動場への避難、津波警報による北校舎3階への垂直避難を行いました。園児も小学校校舎3階まで頑張って避難し、保小全員の無事を確認しました。

その後の引き渡し訓練では、保護者のご協力のおかげでスムーズな引き渡しを行うことができました。

関係者の皆さん、どうもありがとうございました。



－ 防災用の飲料水貯水槽 －

9月12日、運動場北側の地下に設置されている「非常用飲料水貯水槽」の点検と紹介がありました。各地区自治会長が集まり、災害時の取り扱い方を学びました。一人一日3ℓとして2万人分、60m³の飲料水が確保され、常時循環しており、非常時には流入・流出が停止し、手動ポンプで汲み上げる仕組みです。

